

2025年6月1日 第1主日礼拝 ヨハネ15:16、使徒2:41-42 説教「主の選びの群れ」

今日はヨハネ15:16と使徒2:41-42から「主の選びの群れ」と題して2つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 主の選びと恵み ヨハネ15:16

40年前の1985年4月に私たちの波崎キリスト教会は、教会としての産声を上げてスタートしました。銚子教会から11人が株分けされ、笠川牧師夫妻を加えた13名で新しい教会が始まりました。1985年4月14日に開所式ならびに牧師就任式が、当時の松戸福音教会牧師の斎藤成美先生の司式で行われました。その時の説教題が今日の説教題の「主の選びの群れ」でした。当時のプログラムには聖書箇所が記されていなかったので、どの箇所から説教されたのかわかりません。そこで今日は2つのみことばから40年前の開所式を思いつつ、40周年記念礼拝の説教をしたいと願います。第1の点ではヨハネ15:16から、私たち一人ひとりが主の選びによって救われたことを覚えます。3つのことを見ていきましょう。

一つ目は、主の選びと恵みということです。16a【あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。】このイエスの最初のことば【あなたがたがわたしを選んだのではなく】は、私たちの自由意思を否定しているものではありません。イエスを信じることは、私たちの自由意思でイエスを選ぶことです。イエスがここで見られることは、私たちがイエスを選ぶ前に、イエスが私たちを選び、任命してくださっていたということです。即ち私たちの信仰の前に神の恵みが先行しているということです。

エペソ2:8にはこうあります。【この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。】私たちの信仰の前に神の恵みがあり、神の恵みによって私たちは信仰を持つことができたのです。ですから救いは私たちから出たことではなく、神の賜物、神のプレゼントです。ですから神の選びとは神の恵みなのです。

また救いが神の一方的な恵みであるということは、私たちの側に神に選ばれる理由は何もないということです。私たちが優秀だからとか、私たちの努力の結果ではないのです。1コリント1:27にはこうあります。【しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選ばれました。】クリスチャンでも知恵のある者や強い者もいるのではとも思いますが、けれども神の前ではどうでしょうか。神の前にはみな罪人です。自分は神の前に罪人であり、愚かな者、弱い者、取るに足りない者、「地のちりに等しかり、何一つ取り柄なし」だと自覚して、神の前にへりくだる者を、神は救ってくださるのです。神の選びは神の一方的な恵みです。ですから私たちは、神の選びによる救いを、自分の誇りとすることなく、ただ神に感謝して生きるのです。

二つ目は、救いはゴールではなくスタートだということです。16b【それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため】とあるとおりです。救いは私たちのゴールではなく、新たな使命に生きるスタートです。神は私たちに使命を与え、その使命に生きるために救ってくださったのです。その使命とは「行って実を結び、その実が残るようになる」ことです。では救われた私たちが結ぶべき実とは何でしょうか。一つは神を愛して生きる人生の実を結ぶことです。救いの恵みを感謝し、私たちも神を愛し、神を礼拝し、神を賛美し、みことばを愛し、祈りを通して神との交わりの中に生きることです。

もう一つは、隣人を愛して生きることです。それは愛の心を持って隣人と関わることであり、またイエスの救いの福音を他の人にも伝えることです。イエスは私たちが神の愛とイエスの救いを証しすることを願われ、そのために先に私たちを救って下さいました。私たちが結ぶべき実とは証しの実です。証しの実とは、証しをすること、福音を伝えることです。救いは神のわざなので、証しの結果は神にゆだねればよいのです。私たちが他の人に福音を証しすると、その人の心に私たちの証しが残ります。あとは私たちの証しが、その人にとって救いの実となることを神に祈りつつ、関わり続けるのです。

三つ目は、実を結ぶための方法です。それは祈りです。16c【また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。】20世紀に世界中で活躍し、日本にも来て伝道集会を開いたビリー・グラハムは、伝道に必要なことは第1に祈り、第2に祈り、第3に祈りと言いました。祈りの積み重ねがなければ、どんな大集会を開いても人は救われないのです。私たちは人に証しするためには勇気も力もいります。それを父なる神に求めるのです。さらに福音を伝えたい人のために祈ります。私たちの教会のビジョン2025は「人々を主のもとに導く教会」です。大切なのは「人々」という一般化した言葉を、個人に落とし込み、具体的な人の名前を挙げて祈ることです。家族、友人、求道者など、救われてほしい人々の名前を挙げて祈る時、神はその祈りを聞いてくださり、証しの機会を備えてくださいます。私たちが恵みによって選び、救ってくださった神に感謝し、この恵みをさらに多くの人に知っていただくために、祈りながら証しの実を結んでいきましょう。

2. 主の選びの群れ 使徒2:41-42

羊は一匹では生きていけないので羊は群れを作ります。さらに羊だけでは生きていけないので、羊飼いが群れを飼います。クリスチャンも同じです。神は救われた私たちを一人ぼっちにせず、教会という群れの中に入れてくださったのです。

【41 彼のこことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。】来週はペンテコステですが、2000 年前のペンテコステの日、ペテロのこことばを受け入れた人々は、自分の罪を悔い改め、イエスを主と信じて洗礼を受けました。洗礼は洗礼を受ける者の公な信仰告白であるとともに、教会に加えられる印です。3 千人ほどが仲間に加えられたとは、120 人ほどのイエスの弟子たちの中に加えられ、エルサレム教会が誕生したのです。

波崎キリスト教会も 40 年前の開所式をもって、この地に一つの地域教会としての群れが誕生しました。ピリピ 2:13 には【神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です】とあります。神が波崎に教会を建てたいという志を一人ひとりに与え、また銚子教会に与えてくださいました。そして神は 11 人の最初の教会員となる人を選び、さらに牧師夫妻を選んでくださって、波崎という神が選ばれた場所に教会を建ててくださいました。ですから、新しく誕生した教会は、まさに「主の選びの群れ」でした。そしてその後、さらに神は教会に加わる人々を一人ひとり選んでくださり、主の選びの群れが徐々に成長していきました。

開所式と牧師就任式は、最初の教会員にとって大きな喜びだったことでしょう。けれども開所式はゴールではなくスタートです。神がクリスチャン一人ひとりに与えられた使命は、一人で行うのではなく、教会によって行うことが神のみこころです。波崎キリスト教会もその使命を行うために設立されたのです。ですから、波崎キリスト教会も 40 年間、神が与えられた使命を果たすために活動してきました。

42 節は最初のエルサレム教会が何をしていたかが記されています。【42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。】使徒たちの教えは、私たちにとっては聖書の教えです。彼らは聖書を学び、それを守り行いました。ともに集まって交わり、聖餐式を持ち、祈りをしました。また 43 節以降を見ると、必要なものを分け合う奉仕をしました。また神を賛美して礼拝しました。そのような教会の交わりは良き証しとなり、彼らの証しを通して救われる人が毎日起こされました。

私たちも初代教会と同じように、神を愛し隣人を愛する使命を果たすために、40 年間 5 つのことをしてきました。まず礼拝です。波崎キリスト教会の週報第 1 号は 1985 年 4 月 7 日のイースター礼拝です。それから 40 年間日曜ごとに神を礼拝してきました。コロナの期間、ともに集まる礼拝を持てない時がありましたが、その時もそれぞれの場所で礼拝しました。礼拝は神の愛に対する私たちの愛の応答です。神を賛美し、祈り、みことばを聞き、聖餐にあずかり、神の祝福を受けて一週間の歩みに遣わされます。礼拝を通して私たちの信仰が育まれ、主にある交わりが築かれます。

次に教育です。神のこことばである聖書を教会で学ぶことによって、私たちは正しくみことばを理解し、霊的に成長します。教会教育は、礼拝、祈祷会、教会学校幼小中高科、成人科、学び会、教会図書、聖書通読、個人デボーションなどによって行われます。

次に交わりです。私たちはイエスを信じることによって、同じ父なる神を持ち、神の子とされました。その結果、互いに主にある兄弟姉妹となったのです。教会は神の家族です。喜びも悲しみも共にし、祈り合い、励まし合い、支え合います。この交わりは永遠の御国まで続く交わりです。自分のことを覚えて祈ってくださる教会の交わりの中にいることは、私たちにとって大きな励みです。もちろん罪赦されても罪の残る者の集まりですから、問題が起こることもあります。けれども教会のかしらなるイエスを見上げ、神のみこころに従っていけば、問題は解決し、交わりは回復していきます。

次に奉仕です。教会の奉仕のために 40 年間どれほど多くの人が、多くの時間を献げて働いてくださったことでしょうか。また、教会の働きのためにどれほど多くの献金がかさげられてきたでしょうか。奉仕を通して、教会の内側が整えられ、充実してきました。教会形成は牧師一人でするのはなく、牧師と信徒が共に行っていくものであり、そのため教会員も多くの奉仕を担ってきてくださいました。

そして伝道です。教会の内側を整えるのは、外に出て行くためです。教会は内向きになってしまうと、伝道意欲もしぼんでしまいます。そのようなことがないように、イエスも「あなたがたが行って実を結び」と言われました。大宣教命令にも「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」とあります。この良き訪れを、人々の所に行って伝えるのが伝道です。確かに教会にお誘いするのも伝道です。この場合もその人の所に行ってお誘いするのです。

この 40 年間、神は教会員一人ひとりを証し人として用いてくださいました。教会には教会員原簿という書類があります。そこには今まで教会員となった人が記されています。40 年間で波崎キリスト教会の教会員となった人は 131 名です。その中には最初の教会員 13 名がおり、その後信仰をもって洗礼を受けた人、転会や入会によって教会員になった人もいます。その中にはすでに召天した人、転出した人、教会から離れた人もいますが、131 人は神が波崎キリスト教会の教会員となるために選んでくださった人たちです。一人ひとりを主の選びの群れに加えてくださった主の恵みに感謝しましょう。また 40 周年の今年、改めて波崎キリスト教会が「主の選びの群れ」とされていることを自覚し、感謝しましょう。そして、主がこの群れに与えられた使命を確認し、行って実を結び、その実が残る群れとなりましょう。